

序章. 本事業の目的

1. 調査の背景と目的

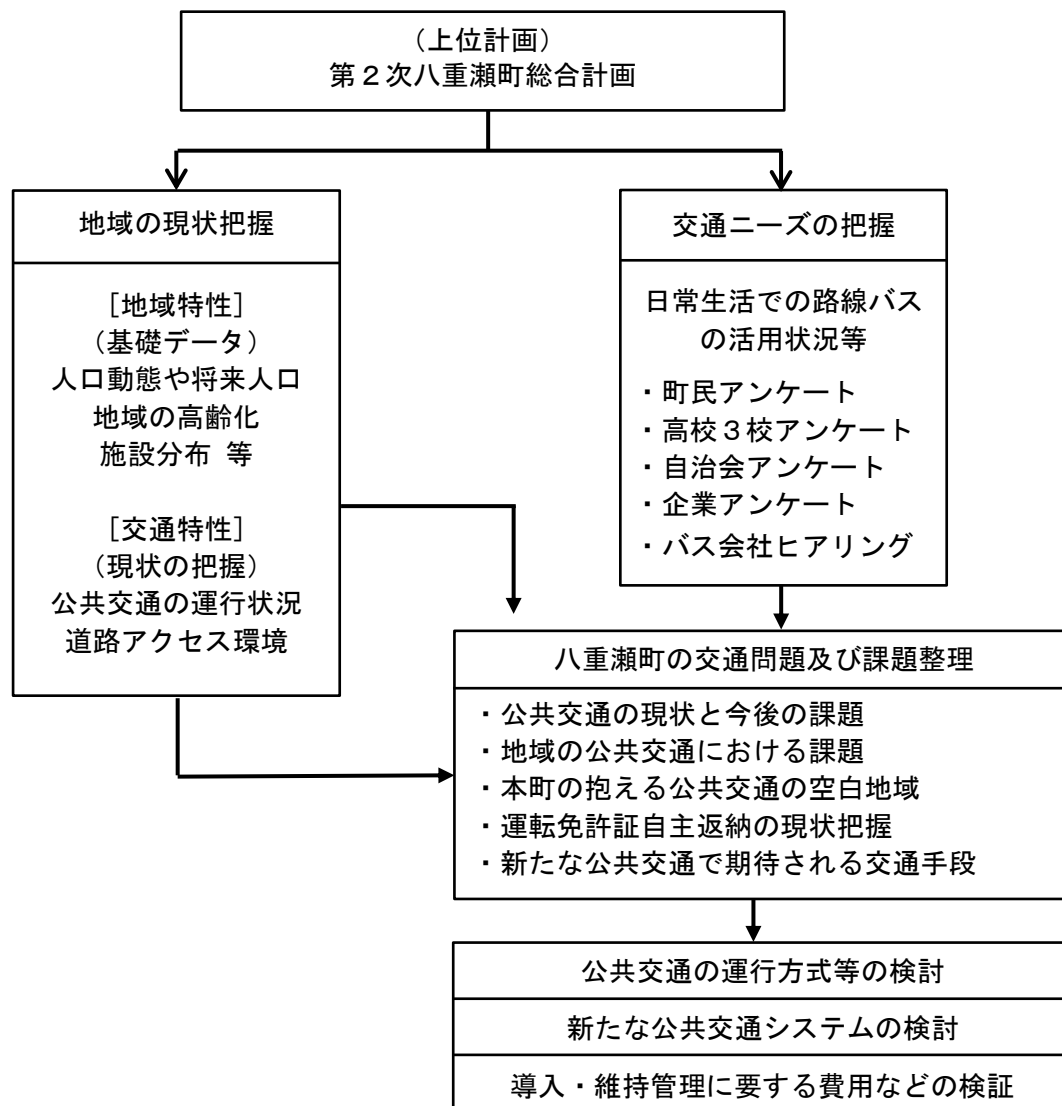
本業務は、町内の交通弱者等の利便性向上、公共交通不便地域の改善・解消を図るため、町における公共交通の地域特性・交通特性の現状把握、交通ニーズ調査等の実施及び課題等の整理を行い、また、新たな公共交通システムの導入に向けた運行方式の検討を行うことを目的とする。

2. 調査対象

本町の地域特性や交通特性を把握し、公共交通に関する基礎調査を実施する。また、本町と近隣市町村との交通アクセス性や利便性の向上を図るため、町界を超えた広域的な移動の実態を考慮して実施するものとする。

3. 調査フロー

本事業における調査は以下のように行う。



(1)調査の目的

公共交通における八重瀬町内の地域の特性や交通特性および地域の方の移動特性に加え、公共交通に対する利用者の満足度や問題点など整理する。また、地域公共交通に関する施策を講じるにあたり、住民の移動の実態を把握し、移動において困っていること等を明らかにし、移動のニーズや実態を把握するため、「町民アンケート」と「高校生アンケート」を実施する。

①町民アンケート：町内在住の２０００世帯のアンケート用紙を郵送

世帯に構成する「高校生・就業者・生活者・６５歳以上」に記入用紙を分けて同封。

②高校生アンケート：町内高校３校に依頼し在学する高校生にアンケート用紙の記入

対象：県立向陽高等学校、県立南部商業高等学校 県立南部工業高等学校

アンケート調査の主な対象者

- ・高校生：高校に通う公共交通サービスの必要性のある世代
- ・就業者：通勤などの移動で公共交通サービスの必要性のある世代
- ・生活者：日常の移動で公共交通サービスの必要性のある世代
- ・高齢者：６５歳以上の高齢者で公共交通サービスの必要性のある世代

調査の主なポイント

- どのような人がどのように移動しているのか（移動実態の把握）
- 既存の地域公共交通をどう利用し、どう評価しているのか（利用者の評価）
- 移動で困っていることは何か、どのように移動したいのか（住民等の意識の把握）
- 地域の公共交通に対する要望や求められていることはなにか（現状の把握）
- 地域の生活に望ましい「新たな公共交通」はどのような方法があるか（改題の整理）

検討の主な方向性

- 既存の公共交通の利用者が少ない。
 - ・自動車が普及し車を利用している。
 - ・公共交通の運行ルートや１日の便数が減少している。
- 既存の公共交通が住民の移動ニーズにあわない。
 - ・公共交通の運行ルートが移動目的にあっていない。
 - ・公共交通の運行ダイヤが移動ニーズにあっていない。
- 町内の公共交通の利便性を把握
 - ・町内を運行する公共交通の実態を把握し、利便性などについて調査する。
 - ・町内の「公共交通空白地域」や「公共交通不便地域」などについて調査する。

(2)調査の実施方法

客観的で定量化されたデータに基づき本業における調査を実施する。

本業務における調査の流れ

